



はるあもりぞい

●医療法人創和会広報誌はるあもりにい / 発行 医療法人創和会 理事長 重井文博
令和5年8月1日発行

念願のドライビング シミュレーターを導入しました

しげい病院 リハビリテーション部 主任 小坂 美江



5月31日に念願の自動車運転の評価・訓練ができる「Honda セーフティナビ」というドライビングシミュレーターを導入しました。これは“だれでも楽しみながらさまざまな交通状況が体験学習できる”というコンセプトで開発されたものであり、3画面のパソコンモニターに映し出された街並みを見ながら運転操作を行い、運転に必要な認知・予測・判断・操作の訓練をすることができます。岡山県内では、しげい病院の導入で5台目となります。

具体的には、ハンドルやアクセル、ブレーキの操作を行いながら有効な視野の範囲や反応の速さを測定することができます。操作の訓練では、右足に不自由がある場合にはアクセルの加減やブレーキの踏みかえ練習、また改造を想定した左足でのアクセル操作も体験できます。両足に不自由がある場合には手でアクセル、ブレーキの操作を行う設定ができるなど、様々な疾患に対応できるようになっています。また危険予測体験というソフトがあり、人や自転車が飛び出してくる危険な場面を体験できるようになっています。私も体験してみましたが、事故を起こしてしまいました。

住み慣れた地域で仕事や趣味、地域活動などを継続するために、安全に自動車の運転が継続できるということは患者さんにとって大切なことで

す。しかし、病気の後には、身体機能の低下だけでなく、判断力や注意力の低下を伴うことがあります。また加齢に伴い反応の遅れや判断のミスが増えるため、事故のリスクは高まります。しげい病院には自動車運転支援チームがあり、自動車運転の再開を希望される患者さんには、そのために必要な身体機能を獲得するためのリハビリを行うと共に、判断力や注意力の検査を行っています。また、連携している自動車教習所で実際に運転を行い、主治医が安全な運転ができると判断した場合は公安委員会提出用の診断書を作成しています。

このたび、ドライビングシミュレーターを導入したことで、患者さん自らが自己の自動車運転能力を客観的に確認し、個人に合った訓練を行うことができるというメリットや、教習所では体験できない危険な場面の体験を行うことで、危険予測や判断を鍛えることに役に立っていると感じています。これから更に症例を重ね、患者さん一人ひとりに合わせた評価・訓練を組み立て、患者さんの希望される生活の再獲得、また地域の安全に貢献していきたいと考えています。

ぜひリハビリテーションセンターに見に来てください。そして、体験してみてください。

幸町記念病院と3施設合同の 役職者基礎研修を実施しました

創和会本部 人事部長 亀山 愛



創和会では2021年度から、両院の看護部長、事務部長等および本部部長が参加する人事制度グランドデザイン会議の中で検討を行い、教育体系の整備に取り組みました。その結果として、2022年度から新任役職者研修の充実（日数拡大）をはかることができ、新任所属長研修を開始することができました。

2022年度の新任役職者研修は参加された皆さんからの評価が高く、2023年度は、最近数年間（2020年度、2021年度）に登用された方についても、6日間の日程のうち後半4日間で役職者基礎研修として受講していただくこととなりました。また役職者基礎研修、新任所属長研修共に、創和会グループに仲間入りした幸町記念病院からも参加されることとなりました。

役職者基礎研修の第1回目は、6月20日に開催されました。講師は中小企業診断士の佐藤翔先生（株式会社日本経営）、研修テーマは「役職者の5つのタスク」であり、組織における役職者の基本的な役割、心構えを理解し、自分自身を見つめなおすこと、明日から取り組む課題を明らかにすることが研修目標でした。

研修の冒頭、7グループ（チーム）に分かれ、A4用紙を使ってより高いタワーを築く演習に取り組みました。チームでより良い結果を出していくために必要なこととして、目標を持つこと、役割分担、心理的安全性等々の重要性を演習の中で

体感し、そのうえで自身を振り返りました。演習を通じての気づきは、役職者として求められることについての納得感が高かったのではと感じました。

次の役職者基礎研修は8月15日に開催予定で、それまでの2か月間、今回の研修受講後に立てた目標達成に向けて取り組みます。

研修後の感想では、参加者同士の交流が励みになったとの声が多く聞かれました。今後、病院や部署の垣根をこえて相談、意見交換ができるようになることにも繋がればと期待しています。

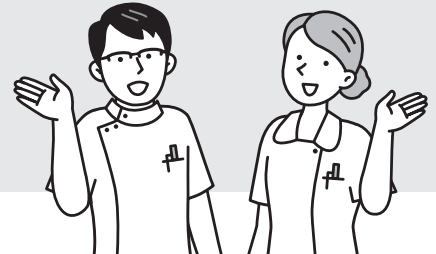


▲6月20日の役職者基礎研修の様子



この人紹介 !!

木下 陽亮先生をご紹介します！
4月から研究所附属病院に勤務されています。



今までのような医療をされてきたのですか？

近畿大学医学部を卒業した後、大阪府の JR 大阪鉄道病院と大阪公立大学（旧 大阪市立大学）で初期研修を行いました。旧 大阪市立大学医学部消化器内科に入局し、色々な病院を経験するという医局の方針で、大学、なんば、泉大津と1年ごとに異動し、内科全般の急性期治療や慢性期治療、障害者病棟で研修をさせていただきました。

その後大学病院に戻り、内視鏡治療全般を担う内視鏡治療チームに所属し、上下部内視鏡検査、食道・胃・大腸癌の粘膜下層剥離術（ESD）、胆道・膵臓領域の超音波内視鏡（EUS）や膵胆道治療（ERCP）を多数経験しました。その中で胆膵領域を専門にし、研究を行いながら、毎日朝から晩まで内視鏡検査・治療に従事しておりました。

2019年からは東大阪の病院の消化器内科に移動し、最終的に副部長として内視鏡修練中の先生方に内視鏡診療全般の指導を行ってきました（内視鏡の時には鬼軍曹だったそうです）。2020年からのコロナ禍でも何とか内視鏡が必要な患者さんに医療が提供できるよう皆で努力した3年間でした。また、2018年より両親が診療している木下医院に週1回勤務し、胃・大腸内視鏡、腹部超音波検査を行ってきました。今年からは週3日診療を行っており、生まれ育った地元でも、培ってきた内視鏡技術で貢献できればと考えております。



休日の過ごし方を教えてください。

1歳の娘がおり、高校以来20年ぶりに戻ってきた岡山中で、子供が遊べそうな場所を探しては家族で遊びに行っています。みやま公園、灘崎町総合公園、岡山県総合グラウンド、県立図書館などの公共施設をはじめ、先日は岡山市に転入した方向けに開放されていたシティライトスタジアムに行き、ファジアーノ岡山を応援してきました。これからの季節は暑いので、砂川公園や、プールにも行くのが楽しみです。気が早いですが、2025年には第2の故郷 大阪で開催される万博に必ず行こうと考えております。



最後に、研究所附属病院での抱負について教えてください。

幅広い病態の患者さんがおられ、診療内容も多岐にわたるため、最善の治療を提供し続けられるよう、総合的な内科医として診療に励みたいと思います。また、内科以外にも前の病院や木下医院で学んだ、皮膚科・泌尿器科診療についても継続して取り組んでいきたいです。

病気になられた方が少しでも楽に過ごせるよう、また病気の予防・早期発見に取り組み、長く健康に過ごせるような医療を提供していきたいと考えております。

知ってる？創和会グループ 重井医学研究所

重井医学研究所とは？

腎臓病の病態解明と治療法開発を目指し1978年に創立。現在、分子遺伝部門・細胞制御部門・分子細胞生物部門の3部門で構成され、各々が独自のテーマを持ち日々研究しています。

研究所では、主にマウスやラットを用いた腎臓病の研究を行っています。日々の業務として、毎日、動物の健康状態の確認、尿検査等から腎臓の病態を観察。また、動物から腎組織などを採取し、遺伝子と病態との関連などを検討しています。

最近の研究成果

- 腎不全の悪化を抑えるのに重要な役割を果たす遺伝子Sfrp1を発見 (広報誌はあもにい214号)
- 新規ゲノム編集作製法rGONAD法を世界で初めて開発 (広報誌はあもにい253号)
- 世界で初めて腎臓の難病・アルポート症候群をラットで再現 (広報誌はあもにい292号)

研究によって得られた成果は、国内外の学会で発表しています。また、新しく開発した技術については、講習会などを行い広く発信するようにしています。このように研究成果や技術を広めることが創和会の発展へと繋がり、同時に社会貢献になると考えています。

さらに、地域貢献の一つとして行っているのが、小学生～中学生の職場体験や、講義・講演会等での学生・市民との交流です。研究所は、「子供たちの将来の視野を広げ、チャンスを増やしてあげたい。そして、様々な選択肢を広げる手助けができれば」と考えています。



▲研究所メンバー

研究所の最新ニュース

古家野孝行主任研究員が研究助成を受賞！

重井医学研究所 細胞制御部門の古家野孝行主任研究員が、令和5年度川崎医学・医療福祉学振興会の教育研究助成を受賞しました。古家野主任研究員は平成28年にも同助成を受賞しており、今回が二度目になります。助成研究題目は「ADPKD原因分子に対するモノクローナル抗体作製と治療への応用」です。「二度目の受賞にびっくりです。これも多くの方々の日頃のご支援の賜物と感謝いたします。研究所が長年、開発・改良してきた抗体作製技術を活かして、多発性嚢胞腎の診断や治療に資するモノクローナル抗体の作製に挑戦していきたいです」と研究への抱負を述べられました。(北村)



幸町記念病院広報担当
大賀・矢吹が
松山部長にインタビュー!!



松山部長ってこんな人!

1975年愛知県生まれ。東京工業大学卒、理学博士。
理化学研究所や愛知県がんセンター研究所などを
経て2012年、重井医学研究所へ。



松山部長

Q. 研究者を志したきっかけは?

松山部長はもともと、大学在学中には国家公務員志望だったそうです。しかし、大学のカリキュラムで研究室に配属されたとき、当時の恩師から「研究者は世界一になれる職業である」と言われ、その言葉に心を動かされ、そのまま研究者の道に進まれたそうです。

松山部長の研究に関するクイズも交えながら楽しく見学させていただきました。

Q. 理研・がんセンターを経て、なぜ重井医学研究所に?

若い時に独立するのが自分に向いていると感じ、重井医学研究所に研究の主宰者として36歳の若さで就任されました。今まで行ってきた遺伝子の研究を活かせば、必ず腎臓病の研究に役立てると考えられていた松山部長は、就任後2年という早さで国際誌や新聞に掲載されるという形で成果を出されます。



時に、「岡山だから、小さい研究所だから」と外野から言われることもあるそうですが、研究レベルでは負けていないと自負されています。必要な設備さえあれば、あとは研究者次第。松山部長にとって重井医学研究所は「ビジョンを活かせる職場」であり「研究者の能力と才能を最大限発揮出来る職場」とであると話されました。

Q. どんな仕事をしているの?

松山部長率いる分子遺伝部門では、主にマウスやラットを用いた研究がされており、毎日の健康状態を確認することや、尿検査等から動物の状態を観察し、組織を採取することで遺伝子や腎臓病の研究をしているとのこと。

「何事もスピード勝負」「研究は終わりもないしゴールもない」と話す松山部長は、1日に達成できる仕事を組み立て、スタッフと共有し研究にあたっているそうです。研究の内容は腎臓病モデルラットの開発や腎炎発症のメカニズム解明、遺伝子の探索など多岐にわたります。また、国内外の学会にも多く参加されています。

松山部長は学会について「学会は発表を聞いて勉強する場所であると同時に、研究者同士の何気ない雑談の中から、発表中には聞くことができなかった未発表の研究データをこっそり教えてもらうことができる。実際、その会話から新しい研究のアイデアが生まれ、現在の研究へ繋がっている」という話を聞き、とても驚きました。

尿検査はなんと人間と同じ試験紙を使っています。



Q. 聞きたい!松山部長のプライベートは?

休日の楽しみは旅行!なんと国内なら47都道府県を2周制覇!
各地の観光名所は網羅!

海外旅行もお好きで、国内外の学会の合間に、訪れた街を散策するのが欠かせない楽しみだそうです。

そんな松山部長の普段は、基本的に“子育て”とのこと。2012年にお子さんと2人で岡山に来て以来、研究者として活躍する傍ら、ワンオペ育児で子育てと仕事の両立に奮闘してきたそうです。現在、高校1年生の娘さんとも一緒に旅行するほど仲よし家族!



サイン看板と外来フロアのソファをリニューアル！

研究所附属病院 事務部 総務課 栗原 玲音

この度、研究所附属病院では総合案内・お薬窓口周りのサイン看板と外来フロアのソファのリニューアルを行いました。

受付は患者さんが来院されて最初に来られる場であり、病院の顔であると考えています。今回リニューアルするにあたって、研究所附属病院のインテリアの特徴である大理石の風合いや、山の上の自然豊かな立地などをコンセプトに打ち合わせを進めていき、一段と明るい雰囲気の出付けが出来上がりました。

今までのソファは開院以来長年の使用で、過去に生地の変更などの補修をしたものの、クッション性が無くなっているものもあり、来院される方々にご不便をお掛けしておりました。

今回は機能・デザインを見直し、ご来院いただく皆さんに少しでも心地よく待ち時間を過ごしていただけるよう、座り心地や立ちやすさに重点を置きました。また、手に優しい木の手すりや、院内に溶け込む落ち着いたカラーリングを意識しました。

今回のリニューアルで、患者さんの待ち時間における負担を少しでも和らげることができたらと思います。



▲サイン看板は、今までより明るく見やすく！



▲ソファは手に優しい木の手すりや、座り心地もよくなりました。

しげい腎クリニック早島の造成工事が完了しました

研究所附属病院 事務次長 田中 昭彦

4月下旬より始まった「しげい腎クリニック早島」建設予定地の土地造成工事が完了しました。

建設予定地の東側と南側には用水路があり、工事にあたって用水路の半分は矢板と呼ばれる鉄板の杭を打ち込み、水の侵入を防ぐところからはじまりました。その後、型枠の作成、鉄筋の組み立て、コンクリートの流し込みを経てしっかりしたコンクリートの壁が立ち上がりました。

通常ならこれで完了なのですが、そこは自然保護にも力を入れている創和会グループのクリニック。“用水路に住む生き物にも配慮した護岸を”ということで、東壁の用水路側には用水路の小魚の住処や水生植物が生息できるようにグリ石を詰めた砕石かごを沈め、水面から上の部分には微生物・コケ・植物等の付着育成、二酸化炭素吸収効果、水質浄化効果があるビオフィルムという多孔質溶岩パネルを貼り付けるなど、環境にも優しいクリニックづくりの想いをここにも込めています。



▲造成工完了



生態系を壊さないように親水護岸工事を実施

「誠和会ツアー」に参加しました

しげい病院 地域連携部 主任 岩長 留美

7月12日、医療法人誠和会主催の「誠和会ツアー」に、しげい病院 地域連携部から5名が参加しました。しげい病院を含めて8病院 25名が参加しており、大盛況でした。倉敷記念病院と隣接した関連5施設を小グループに分かれて回り、丁寧に説明を受けながら各施設を見学しました。しげい病院からの退院支援で誠和会関連施設にお世話になるものの、知らないことが多く、実際に見学や説明を受けられる貴重な機会に興味津々でした。

誠和会は倉敷記念病院を中心に各施設が特色を活かしながら連携し、いざという時は医師や看



護師が対応できる安心した療養環境が整備されています。通所リハや介護老人保健施設はリハビリテーションに特化しており、利用者さんの目標に合わせてスタッフ一丸で協働されていました。グループホームや小規模多機能、有料老人ホームはどの施設も温かみがあり、入居者の皆さんの安心された笑顔が印象的でした。

倉敷記念病院は現在新館工事の真っ最中で、来年夏頃に完成し秋頃にオープン予定です。地域包括ケア病棟が2病棟で約100床、回復期リハビリテーション病棟50床と、さらにリハビリテーションが充実した病院になるそうです。しげい病院にとっては医療圏や病院機能が重なる部分がありライバルとしてプレッシャーではありますが、互いに切磋琢磨し、共に地域医療を支えていく仲間として連携を深めていきたいです。

入退院支援業務を行うなかで、互いの顔が見える関係の大切さを改めて感じました。これからも倉敷市内だけでなく岡山県内の病院同士の交流を深めていきたいです。

温かいおもてなしをいただき、ありがとうございました。

広報誌「はあもにい」 ～多くの方々に読んでいただいています～

配布・発送部数

創和会グループにお勤めの職員が、お互いを知ることがを目的に毎月発行している「広報誌はあもにい」。実は、OBや入職内定者の他、県内外の医療機関・介護施設や看護学校等、報道機関や行政機関など、創和会のことを知っていただくために、職員以外の方に発送をしています。重井理事長は「重井先生、広報誌読んでいますよ」と、著名な先生に声をかけられることもあるようです。

院内外の読者の皆さんに、クリニック開院や幸町記念病院との取り組みなど、読みやすい・分かりやすい紙面で「創和会の今」を発信していきます。



職員	創和会	1,100
	三祥会	100
	はあもにい倉敷	30
職員関係	職員OB	135
	採用内定者	35
	職員関係計①	1,400
医療関係	医療介護連携先(県内)	600
	医療介護連携先(県外)	110
	医療系学校	25
その他	報道機関	35
	行政・金融機関等	30
	外部組織計②	800
発行部数(①+②)		2,200

催し物案内

重井薬用植物園

植物園を楽しむ会

「ミズオトギリの花に
新涼を楽しむ」日時：8月26日(土)
17:00～19:00

会場：重井薬用植物園

編集後記

●去年、紳士のたしなみとして購入した振動ドリルですが、なかなか穴をあける機会に恵まれず日々を過ごしています。たぶん夢卓上クーラーくらい一般的に普及しているものだと思うのですが、皆さんどうやって穿孔チャンスを得ているのか不思議です。そこで宅配ボックス(2台目)を設置することにしました。地面を掘って、タンパーでドツドツしたらコンクリートを敷いて水平を出します。そしてアンカーボルトを埋め込むための下穴をあけます。ガガガガ！工事現場の横を通りかかった時に聞こえてくる聞き覚えのある音がします。基礎ができてしまえばあとは適当に買った宅配ボックスを設置するだけ。という想像をしましたので、今年の夏は宅配ボックスを設置しようと思います。(MK)

●今年の夏は娘の夏休みが2週間しかない!?「子供が大きくなると家族の時間が少なくなる」とはこのことだな」と思いました。仕事もあるので、なかなか一緒に過ごせない……。こうやってあつという間に、親離れしていくのだなあと中1の娘の成長をひしひしと感じています。そんな娘にお願いされ、夏休みの旅を、喜寿を迎えた祖父のお祝いも兼ねて思い出旅行にするために計画を練っています。夏の暑さに負けずに、楽しい旅行ができればよいなあと今から楽しみです。(IY)

「集団でのルール」

ジャパン EAP システムズ EAP 相談室

仲の良いグループが、旅行の行き先を決めていました。海や山、食べ歩きなどアイデアが出て、最終的には「山頂から紅葉を見よう」と山登りに決まりました。しかし当日は季節外れの真夏日。全員、バテバテ状態で山頂に辿り着き、楽しみにしていた眺望に感動する余裕もありません。ふと「決める時、絶対BBQがいいよね〜って思ったんだよね」と一人が言い出し、妙な空気になってしまいました。

皆さんはこのような経験はありませんか？発言した本人には悪気はなく、言った後はむしろスッキリしたかもしれません。しかし皆で決めた事柄に「本当は…」と後で不満をこぼすと気まずい雰囲気になりますし、周りから「そんなの誰しも思ってるよ(でも普通は言わない)」「なんでいまさら(空気を読め)」と思われるリスクもあります。

プライベートであれ、職場であれ、何らかの集団に属していると自己主張を抑えて、チームワークや集団全体を優先した行動が求められることがあります。自分にとって「良い」「やりたい」ことがそのまま集団の決定となれば良いのですが、現実にはそうした機会は少なく、周囲とのバランスを考えて自分を調節するスキルが求められます。例の発言のように後で蒸し返さないのもその一つです。他にいくつかポイントを示します。

まず、意思決定の段階で一人ひとりがしっかりと意見を述べられることが大切です。「自分を伝え、相手を聴く」当たり前と思われるかもしれませんが、皆が聴いている場で個々が主張することは、決定後に言わなかった後悔や言えなかった不満を最小限に抑えることができます。

しかし集団には「自分の意見を言うのは恥ずかしい…」「誰かが決めてくれたらいい」と思う方もいらっしゃるかもしれません。その時はメンバーの考えを積極的に尋ねると良いでしょう。「(山登りに決まろうとしているけど) どう思う？」と話題を振ることで、見落とされていたことに気がついたり、良いアイデアに巡り合うかもしれません。

では、最終的な決定に納得いかない場合はどうしたら良いでしょう。採用されなかったからといって、あなたの考え・アイデアは無価値ではありません。別の機会にとっておくと割り切って考えることをお勧めします。また所属グループと無関係の人に話すなど、集団から離れた対処も有効です。別の角度からみると、集団の決定の良いところや、自分のアイデアに足りなかった点に気づくこともあります。こうしたことが、集団の意思決定の水準を引き上げる可能性もあります。

ちょっとした集団でのトラブルも、心がけ一つで結果は大きく変わってきます。家族といった小さな集団でも意識して過ごしたいですね。

※医療法人創和会は職員の心の相談窓口として、ジャパン EAP システムズと契約しています。相談はお気軽に、電話やメールで。



医療法人 創和会

生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に

しげい病院

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)3655 FAX086(421)1991

岡山しげい訪問看護ステーション

岡山しげい居宅介護支援事業所
〒710-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)4300 FAX086(282)4301

重井医学研究所附属病院

〒707-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)5311 FAX086(282)5345

倉敷しげい訪問看護ステーション

倉敷しげい居宅介護支援事業所
〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8111 FAX086(421)1991

重井薬用植物園

〒710-0007 倉敷市浅原20
TEL086(423)2396

重井医学研究所

〒707-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)3113 FAX086(282)3115

倉敷昆虫館

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8207